

2006年5月22日

報道関係各位

ミスミグループ本社 2006年3月期連結業績を発表

- 初の売上高1,000億円突破、売上高・営業利益ともに過去最高を4期連続で更新 -

株式会社ミスミグループ本社（本社：東京都江東区、社長：三枝匡）は本日、2006年3月期（2005年4月1日～2006年3月31日）の連結業績を発表しました。主な業績数値は以下の通りです。

	2005年3月期（注）	2006年3月期	増減率
	百万円	百万円	%
売上高	81,509	105,408	+29.3
営業利益	10,649	13,035	+22.4
当期純利益	6,507	7,618	+17.1
1株当たり当期純利益	156.53円	169.89円	+8.5
1株当たり年間配当金	31.00円	36.00円	+16.1

2006年3月期の連結業績ハイライトは以下の通りです。

- 1. 売上高が初めて1,000億円を突破、過去4年間で売上高を2倍に。
売上高と営業利益は4期連続、当期純利益は3期連続で過去最高を更新**
 - 2006年3月期の売上高は前期比29.3%増の1,054億円と、1963年の創業以来初の1,000億円突破となりました。創業40年の2002年3月期に516億円の売上高を達成しましたが、その後のわずか4年間で同額以上の売上高を上乗せしました。
 - 営業利益は前期比22.4%増の130億円を計上、上記売上高とともに4期連続で過去最高を更新しました。当期純利益は前期比17.1%増の76億円で、3期連続で過去最高を更新するなど、継続的な高成長・高収益を実現しています。
 - 2006年3月期の好業績は、戦略商品の拡充や新商品の投入などの施策、および積極的な営業活動に加え、自動車等の関連顧客の堅調な設備投資により当社主力事業である機械工業系各事業（自動化学業、金型部品事業、エレクトロニクス事業および光関連事業）が好調に推移したこと、ならびに2005年4月1日に実施した駿河精機株式会社との経営統合に伴う売上増などが主な要因となっています。
- 2. 全事業で売上高が伸長 - 自動化学業が高成長を維持し、さらなる収益の柱に**
 - 2006年3月期の事業部門別売上高では、自動化学業、金型部品事業、エレクトロニクス事業および多角化事業の全事業部門において、売上高が伸長しました（光関連事業は2006年3月期から連結業績に計上）。
 - 自動化学業の売上高は前期比31.1%増の464億円を計上。同事業部門の売上高の伸び率は全事業部門でトップ、売上高に占める割合も44.0%になり、当社の高収益を支える基幹事業として高成長を持続しています。また、エレクトロニクス事業部門は2006年3月期に初めて売上高100億円を達成し、自動化、金型部品に次ぐ第3の柱として着実に成長を遂げています。

注) 当社は、2005年4月1日に会社分割を行い、当社の営業の全部を新たに設立した「株式会社ミスミ」に承継させるとともに、株式会社ミスミグループ本社に商号変更しました。また、同時に駿河精機株式会社が当社の完全子会社となる株式交換を行いました。そのため、2005年3月期（2004年4月1日～2005年3月31日）の数値は、旧株式会社ミスミの数値を用いております。

3. 海外比率が前期比 2.4 ポイントアップの 14.3%に増加 - グローバルでのミスミの QCT モデルの拡大

- 2006 年の海外現地法人売上高は 141 億 11 百万円と 45.5%の成長を実現、海外売上高比率は前期比 2.4 ポイント増の 14.3%に急伸しました。
- 広州営業所（中国）やアトランタ営業所（米）、タイやドイツにおける QCT 配送センターの開設など、海外の拠点の展開を加速させたほか、駿河精機との統合によるグローバル生産体制の確立が寄与しました。

4. 前期比 5 円増配による利還元拡大

- 当社は「グループ連結純利益の 20%以上」の配当方針を掲げており、2006 年 3 月期の 1 株当たりの年間配当金は前期比 5 円増の 36 円とする予定です。
- 安定的な配当の継続に努めた上で、内部留保金については財務体質の充実・強化を図りながら、長期安定的な経営基盤の確立に向けた商品力・サービスの向上と国内外の仕入・販売体制の整備、および多角化事業分野への展開に活用していきます。

5. 国内外で高成長を継続し、2007 年 3 月期も増収増益を見込む

- 当社の主要取引先である自動車、半導体製造装置および液晶関連などの業界における堅調な設備投資を見込むとともに、国内外で「ミスミ QCT モデル」を確立することで、Q（品質）、C（コスト）、T（時間）の変革を加速させ、「創って、作って、売る」のサプライチェーン全体での競争優位性を構築していきます。2007 年 3 月期では売上高が前期比 15.0%増の 1,212 億円、営業利益が前期比 8.9%増の 142 億円、純利益が前期比 7.4%増の 81 億 85 百万円をそれぞれ見込んでおります。

【業績予想に関する留意事項】

この資料に掲載されている2007年3月期の見通し及び将来に関する記述部分につきましては、国内及び諸外国の経済状況、各種通貨の為替レートの変動、業績に影響を与えるその他の要因等、現時点で入手可能な情報をもとに、当社及び当社グループが合理的であると判断した一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの将来に関する記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は、様々な要素により、これら業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要素には当社及び当社グループを取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートなどが含まれます。

2006 年 3 月期の当社連結業績の詳細は別添の決算短信をご参照ください。

この件に関するお問い合わせ
株式会社ミスミグループ本社
経営総務室 広報・IR 担当
Tel : 03-3647-7037 Fax : 03-3647-5802
電子メール : cc@misumi.co.jp